



〒975-0031
福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地
TEL:(0244)26-1315
FAX(0244)26-1318
E-mail:sousou.kyouiku@pref.fukushima.lg.jp

令和6年度「復興に向けた学びを通じた協働のまちづくり事業」

地域学校協働研修会（相双地区研修）

令和6年11月22日（金）13:20～16:30 会場：南相馬市小高生涯学習センター

◎ **講話「地域学校協働活動とコミュニティ・スクールのいろは」**

第一部 地域学校協働活動の可能性と意義 ・ 第二部 放課後子供教室の可能性と意義

文部科学省CSマイスターで、楡葉町教育委員会こども課指導主事兼地域学校協働センター長の **猿渡 智衛** 様をお招きし、「相双地域における地域復興とコミュニティ・スクール、地域学校協働活動」について、ご講話をいただきました。「地域学校協働活動やコミュニティ・スクールは、どのように進めていくのがよいか」「これまでの楡葉町の活動の様子や取組」について、画像を見ながら確認しました。



放課後子供教室や地域学校協働活動は、地域の実情に応じて多様な展開ができる、柔軟性の高い事業！

- ①それらの効果を高めるためには、「子どもの預かり事業」ではなく、
教育事業や地域づくり事業としての価値を認識して高める必要がある。
- ②「地域学校協働活動とは、幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、学校を核とした地域づくりを目指して、**地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う活動である。**

ピンチをチャンスに変える！（講話内容から）

東日本大震災に伴う原発事故により、地域コミュニティが消滅・衰退しつつある中、復興にかける楡葉町の想いは、地域住民の方々にも繋がりました。これまで楡葉町は、地域学校協働活動への協力や学校運営協議会への参画で、地域コミュニティの再生を目指してきました。

地域コミュニティ再生のために必要な要素は、

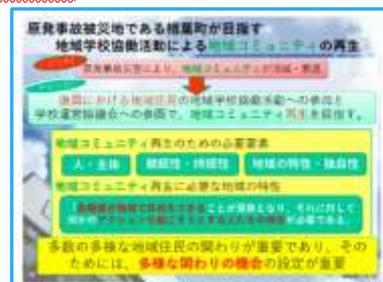
「人・主体」「継続性・持続性」「地域の特性・独自性」 です。

そして、地域コミュニティ再生に必要なことは、**危機感を地域で共有化すること**です！ それに対して

何かのアクションを起こそうとする人たちの存在が、必要不可欠

です！ 多くの地域住民の関わりとその多様な機会の設定が必要です。

「地域学校協働活動は、未来・宝である子どもを育み、子どもが生きる地域をつくる活動になるものです。多様な地域住民が「**地域の未来のために**」という共通の目的をもって、**多様な形で、無理なく、気軽に参画できる姿が見られると良い**と思います。」



熟議体験：「地域の子どもたちは、どんな子ども（大人）に育てて欲しいですか？」

地域・まちづくりの第一歩となる貴重な意見や情報が、交換されました。班ごとに、丸い模造紙にそれぞれの色の付箋を貼りながら、話し合いました。各班4人でスタートしました。

【ラウンド1】

「目指す子どもの姿を言葉にしてみよう」

①黄色い付箋に「育てたい力」や「できて欲しいこと」（どんな子に育てて欲しいか）を書く。

例

- ・前向きな子
 - ・自分の思いを表現できる子
 - ・元気な挨拶ができる子
 - ・相手を思いやる子
 - ・ふるさとを自慢できる子
 - ・おかげさまの心を持った子
 - ・意見が言える子
 - ・コミュニケーション能力を持った子
 - ・自分が好きだと言える子
 - ・自信が持てる子
 - ・認め合える子
 - ・粘り強い子
 - ・働くことが好きな子
 - ・みんなで遊べる子
 - ・強く生きられる子
 - ・素直な子
- など

②付箋を貼り付けながら、考えた理由やエピソードを紹介する。



【ラウンド2】

「現状を見つめ直してみよう」

③ピンクの付箋に、「足りないこと」や「不安・心配なこと」「現在実施できていることや活用できそうなこと」「協力してもらいたいこと」などを書く。

例

- ・人への思いやり
 - ・想像力
 - ・話を聞くことができない
 - ・コミュニケーション不足
 - ・遊び
 - ・自己肯定感が持てない
 - ・感謝できない
 - ・他人任せにしない
 - ・行事への参加・遊びの個別化
 - ・体験が少ない・自信がない
 - ・成功体験があまりない
 - ・多様な人との出会い
 - ・ゲームに熱中しすぎ
 - ・協調性がない
 - ・人との関わり
 - ・近所づきあいの減少
 - ・働く親の姿を見る機会が少ない
 - ・障害者理解
- など

④書いたものが、どの目指す姿につながるのか、貼りながら紹介する。

【ラウンド3】

「教員として、地域としてできることを考えてみよう」

⑤自分にできそうなことについて青色の箋に書く。

例

- ・大人が笑顔・昔遊び
 - ・大人が手本になる
 - ・大人も挨拶
 - ・外遊びや体験を増やす
 - ・子どもとの時間を共有
 - ・読書の時間
 - ・成功体験活動を増やす
 - ・地元見学・化石採取
 - ・企業訪問・交流会
 - ・お祭りや行事の参加
 - ・交友関係
 - ・農業体験・障害者との交流
 - ・目を見て話す・夢を持たせる
 - ・家族での食事
 - ・子どもの話を聞く
- など

⑥1分間スピーチ

1. 優先順位の高いもの（今やらなければ）
2. 実現性が高いもの（すぐできそう）
3. 効果が高そうなもの（できたらすごい）という3つの視点から話し合う。

最後に自分でやってみたい取組を2つ選ぶ。

【研修を終えて（参加者の声）】

- 熟議と聞くと、難しいイメージがありましたが、分かりやすく教えていただき、とても良かったです。
- 熟議の時間が短くて残念でした。皆さんの考えが素晴らしかったので、職場で共有していければと感じました。
- 地域の連携・協働の重要性を再認識することができました。貴重な御講話、ありがとうございました。
- 地域学校協働本部の役割について、もやもやしていたことが晴れました。自分が関わっている地域学校協働本部に持ち帰り、伝達したいと思います。
- 協働は、地域づくりのためにとても大切です。それを行動に移していくことがとても難しいと感じました。それでも楽しそうにやることが、子どもたちのためになると感じました。※大変貴重な御意見・御感想ありがとうございました。

